

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

目的

学術情報流通に係る懸念すべき事例（査読誌であることをうたいながら、著者から論文投稿料を得ることのみを目的とする粗悪論文誌（いわゆる「ハゲタカジャーナル」）や、投稿料や参加費を詐取する目的で、学術雑誌への投稿や学会への参加を持ち掛ける、等）の情報、及びこのような事例に対する大学の対応状況を把握するため行うもの。

- 本アンケートは、国立大学86、公立大学94、私立大学620の800大学を対象として実施。
※令和2年度学術情報基盤実態調査の対象大学数。
- 調査期間は、5月18日～6月18日。
- 回答回収率は、6月21日10時半時点で国立大学100%（86）、公立大学71%（67）、私立大学69%（429）、国公立大学全体で73%（582）。
（一部R3年度開学の大学からも回答あり。回答大学数にはR3年度開学の大学も含む。）

主な設問項目

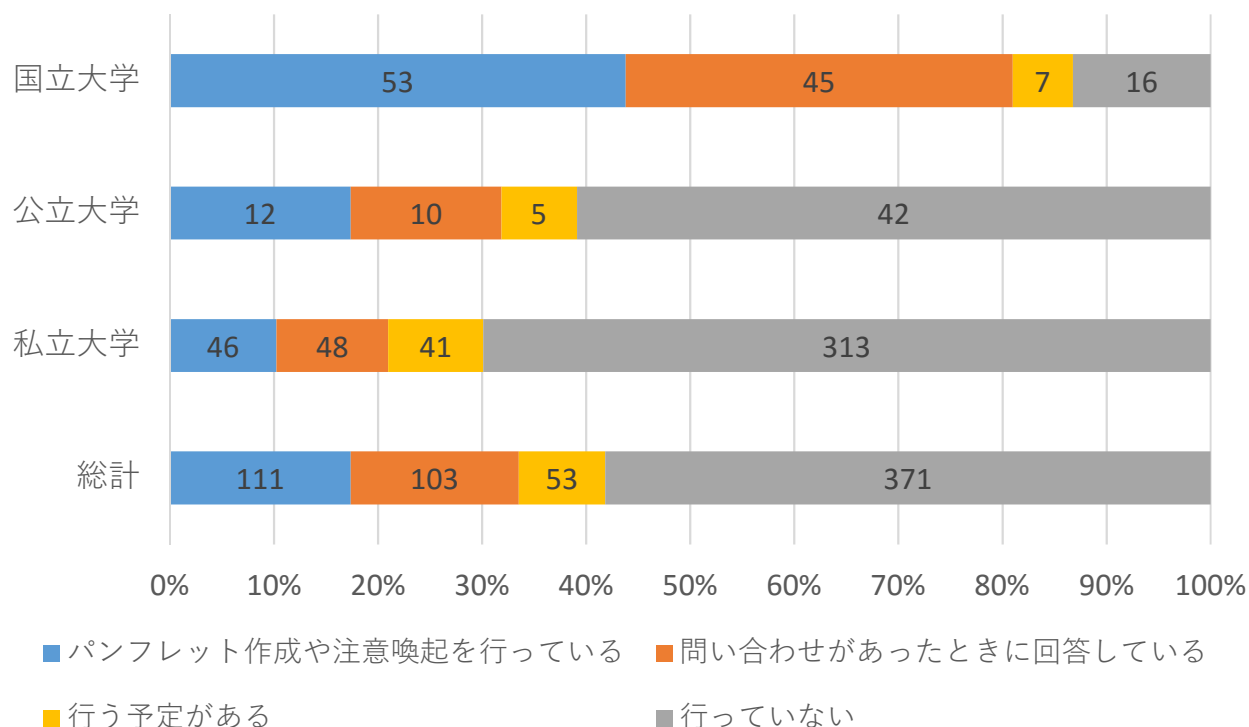
- 懸念すべき事例に対する注意喚起などの取り組みを行っていますか。（複数回答可）
 - 1.パンフレットの作成や注意喚起等の取組を行っている
 - 2.教員・大学院生等から問い合わせが来た時に回答をしている
 - 3.行うことを検討／予定している
 - 4.行っていない
- 取組を行っている部署の名称を記述してください。（自由記述）
- どのようなことを行っていますか。（複数回答可）
 - 懸念すべき事例に関する情報をまとめたパンフレット・Webサイトなどを作っている
 - 懸念すべき事例に対する注意喚起の広報をしている
 - 学内者の意識調査（アンケート等）を行っている
 - 論文投稿に関する説明会の中で懸念すべき事例に関する説明を行っている
 - その他（詳細は自由記述）
- 懸念すべき事例に関する情報をまとめたWebサイトを作成している場合、その詳細をご教示ください。（自由記述）
- 懸念すべき事例に関する注意喚起の広報・周知等を行っている場合、その詳細をご教示ください。（自由記述）
- 懸念すべき事例に関するアンケート等を行っている場合、その詳細をご教示ください。（自由記述）
- 論文投稿に関する説明会の中で懸念すべき事例に関する説明を行っている場合、内容や参加状況をご教示ください。（自由記述）
- 教員・大学院生等から問い合わせが来た時にお伝えしている内容をご教示ください。（自由記述）
- ここまでのご回答以外で、学術情報流通に係る懸念すべき事例がありましたら、お寄せください。（自由記述）

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

回答のあった大学のうち、学術情報流通に係る懸念すべき事例に何らかの対応を行っている、もしくは行う予定のある大学は、国立大学81%、公立大学37%、私立大学27%、国公私全体で36%（211）。

○ 懸念すべき事例に対する注意喚起などの取り組みの状況（複数回答可）

選択肢	国立大学	公立大学	私立大学	総計
1. パンフレット作成や注意喚起を行っている	53	12	46	111
2. 問い合わせがあったときに回答している	45	10	48	103
3. 行う予定がある	7	5	41	53
4. 行っていない	16	42	313	371



学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

○取り組みを行っている部署

URA	11
学部・大学院等	24
研究施設	3
研究推進担当部門	56
研究担当理事等	1
財務担当部門	1
図書館等	53
総務担当部門	5
未回答	102
総計	256

※複数部署で行っている大学もあるため、取り組みを行っている大学の総数より総計が多くなっています。

○取り組みの内容

選択肢	国立大学	公立大学	私立大学	総計
パンフレット・Webサイトなどを作っている	22	0	9	31
注意喚起を行っている	34	5	23	62
学内者に対する意識調査を行っている	2	0	1	3
論文投稿説明会で説明している	15	4	3	22
その他	16	5	17	38

➤ その他の内容

- ・大学院生向け授業の中で、粗悪論文誌の存在やその問題点を説明している。（授業2回実施、受講登録者数：197名）
- ・ハゲタカジャーナルについて識者を招いて講演会を開催した。
「オープンアクセス時代の論文投稿とハゲタカジャーナル」講師：佐藤 翔 氏（2019年7月12日）
【参考URL】 https://www.shiga-med.ac.jp/sites/default/files/2019-06/poster_0.pdf
- ・注意喚起の情報提供があった際に全学メールで周知をはかっている。

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

○懸念すべき事例に関する情報をまとめたWebサイトの作成

取組事例

- ・「論文の投稿にあたり、粗悪学術誌（ハゲタカジャーナル・Predatory Journal）にはご注意ください！」
【参考URL】 <https://www.nms.ac.jp/sh/library/predj.htm>
- ・懸念すべき事例についての情報を浜松医科大学附属図書館HP上にて公開している。
【参考URL】 <https://www.hama-med.ac.jp/lib/apc.html>
- ・懸念すべき事例に関する情報を九州工業大学附属図書館ウェブサイトに掲載している。
【参考URL】 <https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/ja/node/797>
- ・「粗悪学術誌への投稿リスクについて（注意喚起）」として関連情報を掲載している。
【参考URL】 https://research.shimane-u.ac.jp/support-from-ura/support-info_1.html
- ・学内サイトに、論文の投稿先を検討する際に用いる「論文投稿ジャーナルチェックリスト」を掲載し、このチェックリストの提出を、公費での論文投稿料支払いの際の必須条件としている。
- ・徳島大学機関リポジトリのWEBサイト内に、オープンアクセスに関するページを作成し、ハゲタカジャーナルに関する記事を掲載している。
【参考URL】 https://repo.lib.tokushima-u.ac.jp/ja/page/what_is_open_access
- ・懸念すべき事例についての情報を京都大学図書館機構HP上にて公開している。
【参考URL】 <https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/1387404>
- ・本学ホームページにて、ハゲタカジャーナルに投稿した場合の不利益例、雑誌の信頼性を確かめるためのチェックリスト、ハゲタカ学会に関する学術集会の信頼性を確かめるためのチェックリストについて情報共有している。
【参考URL】 <http://www.naist.jp/kensui/information/predatory-journals.html>
- ・広島大学ライティングセンターウェブサイトで公開している。
【参考URL①】 <https://www.hiroshima-u.ac.jp/wrc/resource/predatory>
【参考URL②】 <https://www.hiroshima-u.ac.jp/en/wrc/resource/predatory>

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

- ・懸念すべき点についての情報を大学ウェブサイトに掲載している。
【参考URL】 <https://www.ripo.ynu.ac.jp/researcher/result/PredatoryOAJournals/>
- ・図書館Webサイトで周知している「論文投稿に関する注意喚起（ハゲタカジャーナルについて）」
【参考URL】 <http://www.shiga-med.ac.jp/library/support/openaccess.html>
- ・『注意が必要な「怪しいジャーナル」』ページを附属図書館で作成・公開している。
【参考URL】 https://www.lib.hokudai.ac.jp/support/predatory_journals/
- ・Keio University LibGuides「オープンアクセス論文を探す・公開する」<https://libguides.lib.keio.ac.jp/oa/publish>
ページ内「ゴールドOAとして公開する」の「ハゲタカジャーナルに注意！」
- ・「投稿先学術雑誌の評価方法」というウェブサイトの中で、学術研究の質に関係なく論文等を掲載する悪質な雑誌について注意を呼びかけている。
【参考URL】 <https://www.library.osaka-u.ac.jp/evaluation/>
- ・図書館HPで「ハゲタカジャーナル関連情報」として粗悪ジャーナルへの投稿や引用を防止するためのサイトを公開している。
- ・本学HP上において、「北見工業大学における粗悪学術誌に対する方針」および「論文投稿に係るジャーナルチェックリスト」を公開している。

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

○懸念すべき事例に関する注意喚起の広報・周知等

取組事例

- ・ 研究科長より、所属教員に対して注意喚起を行っている。
- ・ 「粗悪学術誌への投稿リスクについて（注意喚起）」として関連情報を掲載している。
【参考URL】 https://research.shimane-u.ac.jp/support-from-ura/support-info_1.html
- ・ 教職員及び学生へ配布しているリーフレット「研究倫理ガイド」において、投稿料目当ての悪質なジャーナルが存在すること、論文投稿先ジャーナルの選択等研究成果の公開方法は慎重に検討する必要があること等について注意喚起を行っている。
- ・ 「研究倫理ガイド（和文）」
【参考URL】 https://www.kyushu-u.ac.jp/f/43046/guide_for_research_ethics_jp.pdf
- ・ 新任教員に配布しているチラシや「教員ハンドブック」において、ハゲタカジャーナルへの注意喚起を行っている。
【参考URL】 「教員ハンドブック」（p.82） <https://www.kyushu-u.ac.jp/f/43080/%E7%A0%94%E7%A9%B6.pdf>
- ・ 学内メールにて、注意喚起の内容を周知している。
例）ハゲタカジャーナル、偽ジャーナルサイト、偽学会サイトなどの情報、論文を投稿する際の注意事項、関連する新聞記事・論文の紹介等
- ・ 懸念すべき事例（ハゲタカジャーナル）についての情報を福岡学園情報図書館OPAC内にて公開している。
- ・ 研究科運営員会で注意喚起ポスターを作成し、情報図書館課が福岡歯科大学HP、教職員電子掲示板及びOPACで周知。また、情報図書館長による大学院1年生向けの文献検索についての講義の中でも解説予定。
- ・ チラシを作成のうえ学内者に注意喚起している。
- ・ 図書館広報誌で注意喚起している。広報誌はリポジトリにて学外にも公開している。

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

- ・ 学内に通知したパンフレットについて、最新版を徳島大学機関リポジトリのWEBサイト内に掲載している。
【参考URL】 https://repo.lib.tokushima-u.ac.jp/ja/page/method_for_referenced
- ・ 注意喚起リーフレットを京都大学図書館機構HP上にて公開
【参考URL】 <https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/1387404>
- ・ 定期的に学内ポータルサイト及びメールにて注意喚起を行っている。
- ・ 学内に注意喚起の通知をしている。
- ・ ジャーナルの質を判断するための情報を附属図書館HPにて公開。
【参考URL】 URL:<https://m.kawasaki-m.ac.jp/library/submenu/kitei.php>
- ・ 学内メールにて注意喚起を行うとともに、専攻長（所属部署の長）を通じて必要に応じて各所掌において研究倫理教育を行うものとしている。
- ・ 関連トピックを含む講習会を開催した。
- ・ 図書館HP「教職員の方へ」>「投稿先学術雑誌の評価指標」
【参考URL】 <https://lib.kobe-u.ac.jp/userguides/staff/>
- ・ 「オープンアクセスの実現方法」 p2
【参考URL】 <https://lib.kobe-u.ac.jp/media/sites/3/img-oaroad.pdf>
- ・ 「オープンアクセス入門 博士論文のインターネット公表を中心に」 p45-47
【参考URL】 <https://lib.kobe-u.ac.jp/media/sites/3/img-kulip-oanyumon.pdf>
- ・ 注意喚起文書、スライド資料を横浜国立大学研究推進機構ウェブサイトにて公開。
【参考URL】 <https://www.ripo.ynu.ac.jp/researcher/result/PredatoryOAJournals/>
- ・ 全学会議において研究担当理事から注意喚起を行っている。

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

- 令和1年5月、研究企画会議で通知内容を審議の上、学内の研究者に対し、メールにより粗悪学術誌へ論文を投稿しないよう注意喚起を行った。
- 注意喚起ポスターをつくばリポジトリ<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/>で公開している。
- 学内に複数館ある図書館の一部では、図書館で発行している広報誌に記事を掲載し、図書館Webサイト上にて公開している。（理工学メディアセンターニュース）
【参考URL】 <http://iroha.scitech.lib.keio.ac.jp:8080/sigma/bitstream/handle/10721/3247/newsNo.224.pdf>
- 平成29年3月に公表した「オープンアクセスハンドブック」の中で、「3.4.2 ゴールドオープンアクセスの注意点」として粗悪誌への注意と確認方法を記載している。
【参考URL】 <http://hdl.handle.net/2261/72694>
- 学内ホームページやメール配信等により、英語論文投稿時は「投稿予定のジャーナルは PubMed に掲載されていますか？」「参照可能な優良出版社が運営するジャーナルですか？」等について確認するように注意喚起している。
- 図書館ホームページにて公開（医学雑誌を詐称したホームページについて）
【参考URL】 https://library.tdc.ac.jp/index.php?key=jotpa49dn-317#_317

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

○懸念すべき事例に関するアンケート

取組事例

- ・学内の研究者を対象にアンケートを実施（2019.3）。希望者には面談も実施。

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

○論文投稿説明会等での懸念すべき事例に関する説明

取組事例

- ・論文投稿に関する説明会（英語・日本語各90分）で懸念すべき事例に関する説明（英語・日本語各約30分）を行った。参加者は全144名であった。
- ・英語論文の書き方セミナー等で、いわゆる「ハゲタカジャーナル」について注意喚起を行った。参加者は延べ262名。
- ・教職員向けの「英語論文執筆セミナー」（125分）を学外より講師を招いて開催しており、その中でハゲタカジャーナルの見分け方を説明している。昨年度はオンラインにて開催し、参加人数は96名であった。
- ・令和3年3月4日に学内の教職員を対象として開催した、「令和2年度研究倫理・コンプライアンス研修会」において、徳島大学におけるオープンアクセスの現状と課題について、説明を行った。なお、参加人数は211名であった。
- ・論文投稿に関する講習会（30分）の中で、粗悪論文誌の存在やその問題点を説明（いずれも10分程度）。ホワイトリストやチェックリストの活用や、図書館機構で公開している注意喚起ページを案内した。2回実施して、合計参加者数は43名であった。
- ・ライティングセンターのセミナーとして外部講師に依頼し、「ハゲタカジャーナルに注意！ オープンアクセスジャーナル投稿ガイドライン」という1時間のオンラインセミナーを日本語・英語で開催。投稿に相応しいジャーナルの選択の仕方、オープンアクセス出版のタイプ・長所・短所、ハゲタカ出版社・学術集会の危険性及び避け方を説明。参加者人数は、日本語セミナーに100名、英語セミナーに27名であった。セミナー開催後は、動画を学内限定サイトに1年間掲載。
- ・ホワイトリストやブラックリスト、その他チェック事項（例：エディタや編集委員会を確認する）など、複数の観点で総合的に判断することが必要とお伝えしている。説明会の参加対象は学内若手研究者。大学院生の参加が最も多く、7割程度。
- ・論文執筆に関する説明会（105分）で、外部講師から出版倫理に関するミスコンダクトの説明があった。参加人数は69名。

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

- ・セミナー「学術論文発表を取り巻く最新動向：オープンアクセスの現在」を過去に実施し、同セミナーの中でハゲタカOAについて説明を行った。更に、同内容を新任教員研修プログラムとしてオンライン講義にて配信している。
- ・論文投稿セミナー（180分）で「ジャーナルの選択とハゲタカジャーナルの現状」等について、英語論文投稿講座（90分）で「適切な投稿先のジャーナルの選び方」等についてそれぞれ説明を行い、合わせて68名の参加があった。また、学内限定でWEB配信を行った。
- ・英語論文投稿セミナーの適切なジャーナルの選択の中で、ハゲタカジャーナルのケースについて紹介した。（2会場で実施、参加者147名）
- ・①研究公正アドバイザー向けワークショップ（説明内容の一部にハゲタカ出版を含む）
開催日：2018年12月27日（木）
参加者数：33名
- ・②研究公正アドバイザー向けワークショップ（説明内容の一部にハゲタカ出版を含む）
開催日：2019年9月6日（金）
参加者数：17名
- ・③研究公正アドバイザー向けワークショップ（説明内容の一部にハゲタカ出版を含む）
開催日：2019年12月25日（水）
参加者数：16名
- ・④研究公正アドバイザー向けワークショップ（説明内容の一部にハゲタカ出版を含む）
開催日：2020年9月29日（火）
参加者数：14名
- ・⑤研究公正アドバイザー向けワークショップ（説明内容の一部にハゲタカ出版を含む）
開催日：2020年12月22日（火）
参加者数：20名
- ・⑥研究倫理教育セミナー：これからの研究推進を考える－論文出版の動向・ハゲタカ出版・研究データ管理－
（説明内容の一部にハゲタカ出版を含む）
開催日：2021年3月18日（木）
参加者数：157名

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

○教員・学生から問い合わせが来た際の対応

取組事例

➤ お伝えしている内容

- ・参考になるサイト、データベース等の情報を提供している。
- ・URAや問い合わせをしてきた教員と同分野の教員と相談をした上で情報を提供している。
- ・事前によく調査することなどのアドバイスをしたり、ハゲタカジャーナルについての注意喚起をしたりしている。
- ・状況に応じて対応している。
- ・疑わしいメールは無視するよう伝えている。

➤ 参考にしている情報

- ・外部のウェブサイト・データベース等
- ・刊行物
- ・特に決まった情報源はなく、都度調べている

学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて

○その他、学術情報流通に係る懸念すべき事例の情報

- ・既存のジャーナルに似せたWebサイトが作成された。
【参考URL】 <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2020-04-15>
- ・昨年11月、本学医学部と関連の深い英文誌（電子版あり）の偽サイトが発見された。（偽サイトに投稿した海外の研究者から、正規の編集部に問い合わせが来て発覚）おそらく、投稿料等をだまし取るのが目的と思われたので、学内、および国大図協事務局を通じて国内各大学図書館等に注意喚起の連絡を行った。また学内ネットワークからは偽サイトへのアクセス遮断を行った。
- ・Yonago Acta Medicaを騙る偽のWebサイトについて／Yonago Acta Medica | Warning Notice.
【参考URL①】 http://www.lib.tottori-u.ac.jp/yam/FAKE_YAM.html
【参考URL②】 <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/yam/warning.html>
- ・ある研究者の方から、「投稿したあとでハゲタカジャーナルだと知った、でも論文の撤回に応じてくれない、メールをしても返信がない」といった事例があった。